

平成 26 年度 上越市家庭科部 活動報告

部長 品田やよい

1 研究主題

児童生徒が生活の自立を目指し、進んで実践する態度をはぐくむ支援の工夫

2 研究の概要

上越市は小・中学校合同で教育研究会を組織し、家庭科部では小学校と中学校が隔年で授業を公開、研修している。今年度は中学校が授業公開し、協議会の実施、指導者からの指導である。

3 研究の実際

(1) 授業公開 (平成 26 年 11 月 12 日水)

① 授業者 上越市立柿崎中学校 日野 奈央 教諭、本田 紀子 栄養主査

② 題材名 「食事の計画」

③ 本時のねらい

- ・ 仮想家族の食生活の問題点解決に向け、グループの仲間と進んで意見交換して、よりよい献立をつくろうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 仮想家族の食生活の問題点を意識して献立を工夫することができる。(工夫・創造)

④ 展開

- ・ 仮想家族の献立作成上のテーマ (例「野菜嫌いの子どもがいるので、できるだけ野菜を食べさせたい家族)」を決め、テーマに合わせた料理を考え付箋に書く。
- ・ 個人の付箋を班で出し合い、献立のアイデアを共有、テーマに合わせた朝食、昼食、夕食の組み合わせを決定するために話し合う。



⑥ 授業の成果と課題 (研究協議会より)

- ・ 多くの生徒が自分なりの献立を考えることができていた。生徒の活発な意見交換があり、よい学び合いの場面があった。テーマ設定と展開の工夫が有効であった。
- ・ 日常的な食事の献立作りを重視し、足りない物を買って足す手順を教えたい。資料に自分の家庭の調査 (家でよく出る献立など) のデータを入れるとよかった。

⑦ 研究協議会

研究主題の下、以下の 2 視点から、活発な討議と小中学校間での情報交換が行われた。

○ 内容 B「日常の食事と調理の基礎」(小学校)、「食生活と自立」(中学校)における指導・支援の実際と工夫

○ 「考えをめぐらせ (個)、意見を出し合い (集団)、よりよい活動へつなげる (個)」ための学び合いの工夫

(2) 指導

上越教育大学大学院学校教育研究科准教授 佐藤ゆかり様から、以下の 4 観点について具体的な御指導をいただいた。

○ 栄養職員との TT 指導の在り方について

○ 献立作成について

○ 子どもの思考の深まりについて

○ 家庭科の学びの可能性

4 成果と課題

昨年度の小学校に引き続き、日常の食事と食生活の分野での中学校の公開授業をもとに、各会員の実践を踏まえながら、研究協議会を行うことができた。より主体的に実生活に活用できることを目指すとともに、小集団での交流や学び合いにより個の考えを深めたり作り上げたりするための具体策について検討することができた。研修成果を生かし、自らの授業改善に臨むとともに、児童生徒一人一人の自立とよりよい生活の実現をめざして実践を積み重ねていく。